

### 1. 米新政権のTPP離脱に安堵 国内経済は影響軽微

環太平洋連携協定(TPP)からの永久離脱——。トランプ米大統領が大統領令に署名し、参加を表明していた日本などには衝撃が走った一方、非参加国であるカンボジアの産業界からは安堵(あんど)の声が漏れた。同国と同じく縫製業を主力にするベトナムが参加を表明していたため、投資が流出する恐れがあったためだ。カンボジア国内に流入する投資は日本や中国が多く、米国の通商政策が国内経済に与える影響は軽微になるとの見方も出ている。

### 2. 首相、トランプ政権でも「米投資に影響ない」

フン・セン首相は、トランプ米新政権と中国の関係が悪化し、東南アジア域内の緊張が高まるという懸念について、「カンボジアで活動する米企業には影響しない」との見解を示した。トランプ米大統領が中国に強硬な姿勢を示していることから、東南アジア域内の緊張も高まるとの見方がある。中国寄りの政策が目立つカンボジアにも影響が及ぶ懸念が出ている。これに対し、フン・セン首相は「米国と中国は財政面でのつながりが強く、関係が(大きく)悪化するとは信じがたい」と説明。「トランプ氏がそれを望んでいたとしても、(域内に投資している)米企業は納得しないだろう」と述べた。米コカ・コーラは昨年12月、1億米ドル(約113億円)を投じてプノンペン経済特区(PPSEZ)に新工場を稼働させた。保護主義的な発言を繰り返すトランプ氏だが、フン・セン首相は「コカ・コーラのカンボジア工場に撤退を求めることはないだろう」と述べた。フン・セン首相は今年の米大統領選中から、トランプ氏支持を公言していた。

### 3. 台湾・チベットの旗掲揚は認めず、首相

フン・セン首相は4日、政府は台湾の「青天白日満地紅旗」やチベットの「雪山獅子旗」を国内で掲揚することを認めないとの見解を示した。首相はカンボジア華人理事総会の夕食会に夫人とともに参加し、「台湾は中国の一地方」と発言。台湾やチベットの旗をカンボジア国内で認めないとの見解を示した。「中国の主権に介入することはできない」と指摘し、「商業、貿易分野での台湾人の活動は歓迎するが、政治、外交活動は認めない」と述べた。フン・セン首相は東南アジア諸国連合(ASEAN)10カ国の首脳の中でも特に親中派とされる。中国はカンボジアにとって最大の投資元国で、インフラ整備や経済発展を支援する最大の資金拠出国になっている。

### 4. 70年代の政府負債、米政府が改めて返済要求

カンボジア政府が1970年代に米国政府から受けた融資資金の返済を帳消しにするよう訴えている問題で、米国側は改めて支払いを求めた。負債は利子などを含め5億米ドル(約550億円)。ウィリアム・ヘイト駐カンボジア米国大使は3日、米国の融資を返済していない国はカンボジア、スーダン、ソマリアの3カ国だけとした上で、カンボジア政府に返済計画を立てるよう要請。政府が返済に応じない限り、米国政府だけでなく、国際通貨基金(IMF)など国際機関からの資金調達も不可能になると警告した。問題となっているのは、1972~74年に親米のロン・ノル政権時代に米農務省から借りた2億7,400万米ドル。ヘイト大使は90年代に自らも関与したこの融資の返済計画が実行されていないとし「返済引き延ばしは状況を悪化させるだけ」とけん制した。

一方、与党人民党のソク・エイサン報道官は「融資は親米のロン・ノル政権時代に供与され、(本来目的の)食糧ではなく、武器の購入などに充てられた」と反論。フン・セン首相は昨年12月、「(国民の殺害などに使用された)資金提供には、米政府が責任を持つべき」と発言していた。ロン・ノル元帥は70年、シアヌーク国家元首の外遊中にクーデターで実権を掌握してクメール共和国を樹立し、72年に大統領に就任。その後、国内左派と王族派が連合政府を樹立し、内戦に突入した。

### 5. 与野党の攻防激化 地方選など控え、少政党は再編加速

6月のコミュン(地区)レベルの地方選や来年7月の総選挙を控え、与野党の攻防が激しくなってきた。与党・人民党を率いるフン・セン首相は、最大野党・救国党の解党に向け法改正をにらむ一方、国外亡命状態にある救国党のサム・レンシー党首は交流サイト(SNS)上で激しい与党批判を展開。前回の総選挙後の動乱以来、カンボジアの「民主主義」が再び揺らぎ始めている。少数政党が再編に動くなどの新たな動きも出ている。

### 6. 1/3 サムランシー:フン・セン首相は野党分裂を画作?!

野党救国党のサムランシー党首が「フン・セン首相は、救国党の副党首であるKem Sokha氏のことを”一生のパートナー”という風に呼んでいるが、もしも彼がそれで救国党のリーダーたちを分裂させることができると思っているのなら、そ

れは幻想である」と話した。日曜日の夜に、ラジオ番組の”フランスインターナショナル”でゲストとして出演したランシー党首が、インタビューに答える形で話をした。そのなかで、2015年のフン・セン首相と行った”文化”の対話を思い返し、フン・セン首相が現在キム・ソカ氏にしているような対応を私にしていた、と話した。「私がカンボジアにいたとき、同じようなことを言われました。私は彼のパートナーで、私と彼はいっしょになって働いている、と。でも、彼はキム・ソカ氏に取り入ることはできません。私とキム・ソカを仲違いさせたいのでしょうか、失敗の策です」と話す。「キム・ソカ氏に近づいたがっているのはわかりますが、その戦略がうまくいくわけはありません。私とキム・ソカ氏は一体化して彼と戦っており、私にとってこそ、彼はカンボジアを救うための、一生のパートナーであります」、と話した。

ランシー氏とキム・ソカ氏はかつてライバルとしてそれぞれ別の党を率いていたが、2012年の7月に二つは合流し、救国党を結成している。与党国民党のSok Eysan氏は昨日、「ランシー氏が話していることは、正確ではありません。たしかに、フン・セン首相はいま、キム・ソカ氏と協力体制が取れるように測っています。ランシー党首には接触していません。ただそれは、キム・ソカ氏はちゃんとカンボジアにいるから、というそれだけの理由です」、と話した。ランシー党首は2015年の11月に懲役1年の有罪判決を蹴って、国外に逃亡している。「サムランシー氏がいないのだから、首相は誰と話せというのでしょうか。国民議会では、二つの党が対話する必要があります。そしていまのところキム・ソカ氏しか、話せる人がいないのです」と話した。シンクタンクのFuture Forum代表Ou Virak氏は、「ランシー党首が話したことは一理あります。首相は、キム・ソカ氏をランシー党首から引き離したいのでしょうか。この作戦が成功するかどうかは、ひとえに救国党にかかっています。フン・セン首相のこの戦略に、どう彼らに対抗できるか、そこが大切です」と話した。

## 7. 地雷原の芋焼酎を日米へ、元自衛官

内戦時の地雷を撤去した畑から生まれた芋焼酎を、日本や米国に輸出する準備が進んでいる。西部バタンバン州タサエン村で、生活環境改善のために地雷除去活動が続ける愛媛県の元自衛官高山良二(たかやま・りょうじ)さん(69)が中心となり商品化し、村の収入源につなげようと尽力している。焼酎の名前は「ソラクマエ」。「カンボジアの酒」を意味し、国を代表する酒になってほしいとの期待が込められた。特産のキャッサバという芋が原料。まろやかで深みがあり、好評という。カンボジアは、1990年代初めまで20年以上、内戦が続き、タイ国境に近い北西部や西部などを中心に多くの地雷が埋められた。今も最大約600万個が残るとされ、除去作業が続く。

カンボジア国連平和維持活動(PKO)に自衛隊員として参加した高山さんは、定年後もNPO法人「国際地雷処理・地域復興支援の会」の理事長として関与を継続。地雷が除かれた土地などに植えられたキャッサバが安く買われるのを見て、2008年に芋焼酎の検討を始めた。松山市の「桜うづまき酒造」が無償提供した米こうじや酵母を使用。現地に酒造会社「クマエ蒸留」を設立して社員の住民と共に仕込み、10年ごろから販売を始めた。愛媛県の小売業「ありがとうサービス」が日本での販売を目指し手続き中。担当者は「期待している」と話す。高山さんによると、米国の輸入販売会社とも仮契約を結び、早ければ夏から米国で販売できる見込み。700ミリリットルで18ドル(約2千円)。利益の一部を地雷除去費用に充てる。高山さんは「酒造りが地場産業になれば、村は豊かになり地雷除去も弾みがつく」と話している。



## 8. 縫製労働者、7割が健康保険に加入

カンボジア労働省によると、縫製業に従事する労働者の7割超が健康保険に加入していることが明らかになった。政府は今後も保険加入を呼び掛けていく方針だ。カンボジア国家社会補償基金(NSSF)を通じ、60万831人(603工場)の労働者の72%が保険に加入登録をし、うち半数が拠出金を支払っている。ただ実際に保険が下りたのは約1万6,000人とどまっているという。イト・サムヘン労働相は「保険登録の呼び掛けは、まずプノンペンとその周辺のカンダル州、コンポンスプー州で始めた」と説明。今後は他州にも広げていく方針を示した。NSSFは、縫製労働者向けに国内783カ所に診療所を設けている。内訳は保健所が680カ所、委託病院が100カ所、州営病院が3カ所。カンボジア衣料業界労働者民主組合連盟(CCAWDU)のアス・トーン代表は「健康保健の加入は、労働者に緊急事態が発生したときに役立つ」と話す。一方、「手続きが煩雑で保険の利用が難しい」とも指摘した。

## 9. 英M & S、地場縫製工場閉鎖で抗議対象に

プノンペンで、縫製工場の閉鎖により失業した労働者計200人超の一部が、同工場に生産を委託していたとされる英小売大手マークス・アンド・スペンサー(M&S)の事務所前で抗議活動を展開している。抗議を行っているのは、昨年6月に突然の工場閉鎖を決めた中国系チュンファイ・ニットウェアの元従業員40人。同社は最後の給与や労働法で

規定されている退職手当などを支払わずに工場の操業を停止したため、従業員らは同社に生産を委託していたM&Sに対する抗議を決定。M&Sに対して、「チュンファイに代わり、所定の給与と退職金を支払うべき」と主張している。従業員側の代表者は「M&Sを法的に訴えることは考えていないが、生産を委託していた企業として無関係とは言えない」と指摘。同社が平和的な解決に乗り出すことに期待を示した。成果を得るまでM&Sの事務所前で毎日抗議を展開する方針を示している。一方、M&Sは「チュンファイに生産を委託していた事実はない」と強調。「委託先の一つの業者が同工場での生産品を(M&S以外の)他社に納入していたことで、誤解を招いているだけ」とコメントしている。ただ、従業員側はこの主張に不満を募らせている。ある従業員は「工場で撮影した写真にはM&Sのラベルがはっきりと写っている」と指摘。さらに別の従業員は「M&Sは当初、われわれと会談し、この件について話し合うことに同意していた」と述べ、M&Sがチュンファイと無関係との主張は受け入れられないと訴えた。

#### 10. 1/4 縫製工場で、組合を組織した男性がクビに

Sinosky Hejun 縫製工場では、100人以上の労働者が昨日4時間にわたってストライキを行い、解雇された男性の復職を要求した。Khmer Union Federation of Workers Spirit の代表 Mom Seak さんは、「会社は労働者たちのリーダー的存在の Kim Chetra さんを解雇しました。彼はちょうど労働組合を設立したところでした。労働者の抱える問題解決にあたるためとして設立されたものです。会社は、その行動に対して解雇というアクションをとったように思えます」と話した。中国人オーナーのこの縫製工場は、プノンペン Por Sen Chey 地区にある。ズボンやシャツ、タンクトップや短パンなどを製造しています。労働者の一人 Srey Na さんは、「私たちはみんな、Kim Chetra さんに戻ってきて欲しいと思っています。彼はとても真摯になって、私たちを助けようとしてくれます。組合のリーダーになるべきだと決めたのも、みんなです」と話した。

#### 11. 1/12 工場倒産の危機感、労働者がストライキ

プノンペンにある Kbal Koah 縫製工場と、カンダル州の Top World 縫製工場に勤める合計600人ほどの労働者が昨日ストライキを行った。二つの工場はオーナーが同じで、12月分の給与を支払っていないとして訴えられている。子供用のジーンズや短パンなどを製造している、香港の会社である。労働者の代表であり、Kbal Koah 工場働く Ol Vana さんは、「工場が倒産するのでは、とみんな心配しています。正式な倒産の発表はありませんが、12月の給与はまだですし、仕事量も去年から減ってきています」、と話した。また、同じく Kbal Koah 工場の Srey Nang さんは、「12月の給与をもらったら、みんな次の仕事を探す予定です。この数ヶ月、給与の支払いが毎回遅れていましたし、分割で支払われることもありました。昨日会社の代表と話をしましたが、まだお金が用意できていない、と言われてしまいました」と話した。工場の運営職員である Khin Van さんは、「工場倒産の予定はありません。でも、話したように、いま会社にはお金がないのです」と話した。

#### 12. 1/10 中国人労働者、賃金を求めデモ

建設業で働く約40人の中国人が昨日、Boeung Kak 湖の開発エリアで抗議を行った。北京にいる雇用者が、数ヶ月分の給与を支払っていないと主張する。Graticity Real Estate Development Co (GRED)が Boeung Kak のディベロッパーである Shukaku 社と共同で推進しているプロジェクトのもと働いている。抗議に参加している Chen Guo Weng さんは、「私たちはもう半年近くも給与をもらっていません。しかも、もらった分にしても、最初話しを聞いていたよりも安いのです。当初は9000元(1300ドル)と聞いていましたが、実際は7000元(1000ドル)でした」と話す。現地の警備員によると、抗議は3日間続いており、昨日代表のひとりが経営マネージャーと話し合いをしていたという。電話で取材すると、GRED の職員は、抗議が起こっているとは知らなかった、と話した。会社は、China State Construction Engineering 社と契約をしているという。現地で、Wang と名乗った男性は、抗議活動が起こっていることについて否定し、会計処理が終わり次第すぐに労働者たちに支払いを行うという。「3日以内には支払います。今月末は中華正月がありますから、それでお金が必要なんでしょう」、と話した。

#### 13. 1/13 アシッド(硫酸)・アタックの容疑者女性、逃走中

自分の夫と、夫の妊娠した愛人に酸をかけて大怪我を負わせたコンポンスプー州の女性が、逃走中である。被害にあった Pheng Sreylla さん 23歳は昨日、犯人の女性と、その家族に拘束されて繰り返し殴られた、と話した。「殴られている間に、女が突然2つのボトルに入った液体を私の頭にふりかけました。頭、顔、目がとても熱く、まるで火のようでした」、と話す。Sreylla さんは、小さな縫製工場で働いており、給与をもらいにきたところ拘束されたという。暴行したのは、酸をかけた Chhum Savun さん 34歳、その母親と姉妹2人だった。「いまはなにも見えません。お医者さんは、もし2週間見えないままだったら、今後一生見えない、と言いました」と彼女は涙を流す。彼女は、Vuthy さんの子供を妊娠している。

家に帰った彼女は警察の尋問に応じ、「正義を求める」と話した。「彼女の夫を愛していたことは認めます。でも、離婚を迫ったことはありません。2人目の妻という扱いでいいのだ、と、彼女にも伝えていました」と話した。

現地の警察官 Mech Sophoan さんは、「Savun さんの母親と姉妹は捕まえました。しかし、暴行の主犯となった Savun さん本人はまだ見つかりません」、と話した。また、もう一人の容疑者の Chea Ros さん 36 歳も、探しているという。Sophan さんによると、姉妹のひとり「きっと、嫉妬心を抱いていたのでしょう。Sreylla さんは、彼女の夫と何年も不倫をしていたのですから。しかし酸までかけるとは、予想外した」と話しているという。ちょうど一週間前にも、若いカップルが男性と以前交際していた女性に酸をかけられている。カップルの女性の方は、誰だかわからなくなるほど顔に大怪我を負っている。2015 年は 4 件、2016 年は 3 件のアシッド・アタック(酸攻撃)をポスト紙は報じている。

#### **14. カンボジアのバス予約に新風 新興ブックミー、5年で首位目指す**

カンボジアの国内移動で主流の長距離バスチケットの予約に新たな風が吹き込んでいる。地場のIT(情報技術)新興企業ブックミーバスは、複数のバス会社の乗車券を予約できるウェブサイトを国内で初めて立ち上げ、事業開始から2年弱で販売枚数は100倍に拡大。運行状況や価格比較などを同時に閲覧できることが利用客に受けている。今月中旬には割引チケットの販売に特化した新サービスも発表する予定で、今後5年でバスチケット予約の市場シェア 50%を目指している。

#### **15. サタケ、地場プリマリスの精米工場が完成**

サタケ(東広島市西条)は1月31日、カンボジアの商社プリマリス(コンポンスプー州ウドン)から受注した精米工場が完成したと発表した。1時間当たりの処理能力は20トン。カンボジアで拡大が見込まれる精米需要を開拓していく。

#### **16. タイのカシコン銀、プノンペン支店を正式オープン=今年は15億バーツ融資が目標**

タイ民間大手カシコン銀行は8日、カンボジア・プノンペン支店の開所式を行った。プリディ頭取によると、同支店は2016年11月から営業を開始している。17年の融資目標は15億バーツに設定。当初はカンボジアに進出したタイ企業を中心に融資を進めるが、今後3～5年以内に地元の企業や個人向けサービスを強化していく方針だ。

以上